

令和4年10月25日

芦屋市議会議長 松木 義昭 様

総務常任委員長 川上 あさえ

総務常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和4年10月18日（火）～10月19日（水）
- 2 視察先及び
視察項目 オープンデータの活用について（石川県金沢市）
DXの推進について（福井県福井市）
- 3 参加者 総務常任委員会
委員長 川上 あさえ
副委員長 中村 亮介
委員 山口 みさえ、大原 裕貴
中島 健一、帰山 和也、平野 貞雄
随 行 市議会事務局議事調査課 湯本 俊哉
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以 上

令和4年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和4年10月18日（火） 13時30分 ～ 15時00分
視 察 先	石川県金沢市議会
視 察 内 容	オープンデータの活用について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	官民データ活用推進基本法施行などに伴い、オープンデータの活用に伴う行政課題の解決や経済活性化などが期待されている。官民協働でデータ活用に取り組んでいる金沢市の取り組みを視察することで、本市では本格的な活用ができていないオープンデータの活用法や機運醸成の在り方を探り、市民サービス向上の提案につなげるため。
調 査 概 要	<p>【オープンデータの取り組みについて】</p> <p>1 取り組むきっかけ</p> <p>地域課題の解決につながるアプリ開発を促すため、金沢市が開催したアプリコンテスト（平成23年度～28年度）が機運醸成のきっかけとなった。「公共データを自由に利用できる環境がほしい」と市長に訴えたことをきっかけに、施設等のオープンデータ（平成25年1月～）、画像オープンデータ（平成26年3月～）、イベント情報オープンデータ（平成29年1月～）を順次公開。ITエンジニアや映像作家ら市内を拠点に活動していたシビックテック団体との協働により、ゴミ出しを分かりやすく示すアプリ開発など、生活に密着したITサービスの展開にも役立っている。</p> <p>2 主な取り組み</p> <p>(1) 作り手の育成</p> <p>学生を対象にエンジニアからアプリ開発に必要な知識やスキル習得に向けた「KANAZAWA アプリ開発塾」（平成26年度～令和元年度）を開催。また、IT技術者の指導を受けながらノーコードでアプリ開発に最低限必要な知識技術をオンラインで学ぶ「シビックテック塾」も開催</p> <p>(2) 周辺自治体の共通フォーマット化</p> <p>各自治体でオープンデータ形式が統一されていないことを受け、石川中央都市圏の4市2町で共通フォーマット化（平成29年度）を実現</p> <p>(3) 職員の育成</p> <p>全庁的な取り組みを進めるために、平成27年度にオープンデータの推進に関する取り組み方針を策定。令和3年度から管理職や現場リーダーを対象にしたデータ利活用研修を実施</p> <p>(4) オープンデータの周知</p> <p>シビックテック活動を市民に周知し、市民協働を促す「シビックテックサミットカナザワ」（平成29年度～）や、地域課題をICTで解決する「地域マッチング事業」（令和2年度～）、オープンデータの公開要望を議論する「官民ラウンドテーブル」（令和元年度～）を開催。令和4年1月からはオープンデータのポータルサイトをリニューアル</p> <p>3 これまでの成果</p> <p>画像オープンデータ（ダウンロード数18,000件（令和4年3月時点））、施設等オープンデータ（データセット638件、同年3月時点）など、活用ケースは増加している。また、民間企業が作成した観光関連に活用できるアプリも活用されている。</p>

<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>先進自治体である金沢市においても、オープンデータのポータルサイトに登録されているデータは現状において行政データのみとなっている。今後、民間企業や大学等研究機関との協働を図り、市民により有益なオープンデータの在り方を探るためには、市民や事業者も登録可能なシステムを構築していく必要があると感じた。そのためには、オープンデータの信用性の向上と市民の理解・合意形成は不可欠となる。ちなみに、金沢市では個人情報を含む行政データは扱っておらず、本市においても、オープンデータの推進に関する考え方や方向性をはっきりと打ち出すことが肝要であると考え。まずは、オープンデータのニーズ把握から始めることになるが、周辺自治体とのデータ形式の統一も課題となるだろう。</p>
------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和4年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和4年10月19日(水) 10時00分 ～ 11時30分
視 察 先	福井県福井市議会
視 察 内 容	DXの推進について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	国が掲げるDX推進計画では、ICTを活用した自治体サービスの業務効率化と住民サービスの向上につなげることを求めている。全国トップクラスのDX推進県と呼ばれている福井県で中心的な役割を担う福井市が策定した推進計画の進捗状況や課題を学び、芦屋市が目指すDXの在り方を学ぶため。
調 査 概 要	<p>【福井市DX推進計画実施計画の概要】</p> <p>市の上位計画である総合計画を進める上での計画で、スケジュールや数値目標を設定している。計画期間は令和4年度～令和8年度で、3つの基本目標(暮らし、産業、行政)と48の取り組み事項を設定している。また、職員で構成する福井市DX推進委員会と産官学で構成する福井市DX推進会議とで連携して実施しているが、毎年度見直しの検討を行い、適宜、追加や修正を行う。</p> <p>【主な取り組み】</p> <p>1 暮らしのDX</p> <p>ICTを活用した公共交通の利便性向上(地域住民の移動ニーズに応じ、検索や予約、決済等を一括で行うMa a Sシステムの導入)。電子クーポン発行アプリを活用した商業活性化。文化芸術に関する動画をネット上で公開するバーチャル文化芸術祭の開催</p> <p>2 商業のDX</p> <p>企業のDX推進を目指し、コンサルの派遣や補助金の導入を図る。</p> <p>3 行政のDX</p> <p>AIチャットボット運用による窓口対応の短縮化、キャッシュレス決済など</p> <p>【今後の展開】</p> <p>DX人材育成として現場のDX推進リーダーにオンライン学習の受講を義務付け、継続的な育成を図る。また、職員のチャレンジ精神を尊重した機運醸成は必須で、柔軟な推進体制を構築するということだった。併せて、DX関連予算の拡充を目指す。各公民館において高齢者らを対象にしたデジタルディバイド対策を実施する予定で、モデル地区の設定も行い、市民啓発にも努めている。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	芦屋市ではDX推進計画というものがなく、全庁的な取り組みが不足している感は否めない。福井市では副市長をトップとした計画が策定されており、スピード感や推進体制に一体感があったと感じた。また、DXの推進には組織体制の見直しは重要な観点であろう。一方で、先進自治体である福井市においても、庁内の機運醸成が不足しているとしており、電子化に対する抵抗、業務効率やコスト意識の徹底は通常業務の段階から意識する必要があるだろう。DXは新たな分野であることから、前例踏襲主義を排して、DXを早期に取り入れなければ将来的に取り残されてしまうという認識を市民と行政がともに共有することは非常に重要であると考えます。

視察の様子（令和4年度 総務常任委員会）

視 察 先 ①

10月18日
石川県金沢市



金沢市役所を訪問しました。



金沢市デジタル行政戦略課の職員の方にご説明をいただきました。

視 察 先 ②

1019日
福井県福井市



福井市役所を訪問しました。



福井市情報統計課DX推進室の職員の方にご説明をいただきました。

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。